

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人陽和福祉会	代表者	福井 雅子	法人・事業所の 特徴	通い、訪問、宿泊の3つのサービスを組み合わせる形態で居宅サービス計画を作成し、利用者の日常生活を支援し孤独感の解消や心身機能の維持向上並びに家族の負担軽減を図る。また、レクリエーションや各種イベントを行う事によりどんぐりの森ならではの特色ある事業運営に努める。
事業所名	どんぐりの森	管理者	本木 孝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員間やケアマネが相談しやすい雰囲気作りに努め、利用者の情報共有を行い、サービスの質の向上を行っていく。	利用者や家族からの対応や、フロア内での改善事項などは、職員、リーダー、ケアマネ間で話をしやすき雰囲気作りはできていたため、フロア会議なども含めて色々な意見を出して検討することが出来てました。	・職員やケアマネが相談しやすい雰囲気意識は日々の業務の中では大変だったかと思えます。その中でも、情報共有の為の書類を作成している等、サービスの質の向上に繋がっているかと思えます。 ・申し送りノートの活用を通し、利用者の情報共有は出来ていると思えます。ヒヤリハット報告書も作成されているので、職員が一丸となって質の向上に努めていると思えます。	各利用者の担当がケアマネと情報共有や連携をしっかりと行い、利用者に合わせてサービス提供に努めていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	日頃から整理整頓の意識をもち、不必要な物品や書類は処分していく。倉庫内は随時確認して、整理していく。	定期的に、職員やケアマネが書類やファイルの見直しを行い、整理整頓を行いました。また、倉庫内などの整理も随時行い、不必要な物は処分しました。	・倉庫内の整理整頓は分かりませんが、会議室、花壇等は整理整頓、手入れされていると思います。	書類や棚のファイルに関しては、随時整理整頓に努める様に心掛けていく。倉庫内などは、6月、12月の年2回時間を作り片付けていく。
C. 事業所と地域のかかわり	レク担当の職員がいるので、その職員を中心にレクや行事を楽しんで頂けるように各職員間で連携、協力していく。また、引き続き、当日の様子などは写真を撮り、SNSなどに載せて発信していく。	レクの担当制については、うまくできませんでした。当日の職員間で相談し適材適所で業務やレクを行い、利用者を楽しんでもらう事はできました。また、SNSへの写真のアップについては、引き続き行っています。	・コロナ禍のため、外部ボランティアはまだ難しいので施設内で職員さんがレクや行事を企画され楽しんでもらえるように工夫されている点は素晴らしいと思います。 ・会議のライドショーを通して、行事が充実していると感じます。	月毎の行事やレクを年間予定として、事前に出しておくことで、事前に準備ができるようにしていく。また、一緒に担当職員も決めて責任を持って準備をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	新型コロナウイルスの影響で、地域の行事などは参加が難しいと思うので、施設内のオレンジプラスカフェやリモートによるイベントへの参加などを充実させていく。	新型コロナの影響で、地域のイベント等への参加はほとんどありませんでした。ただ、規制に関しては少しずつ緩和され始めたため、小規模多機能内の行事やレクに関しては、コロナ禍前の近い形で実施出来ました。	・多人数で参加したりすることは難しいと思われるので、個別の外出企画や人数を少数にして、何回かに分けて行うことも方法かもしれません。 ・コロナ禍の中、花見や花火などのイベントを充実させていると思えます。	新型コロナの規制の状況を見ながら、徐々に地域への行事などに参加できるようにしていく。また、オレンジプラスカフェも充実させていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	小規模多機能の情報を運営推進会議で随時報告し、意見や提案を出してもらい反映していく。	前年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響であまり意見や提案を反映することができませんでした。	・定期的にきちんと解されていると思えます。行事の内容や取り組みが映像でも報告され、実情の把握に繋がっています。 ・ライドショーや人数報告など分かりやすくまとめられていると思えます。	小規模多機能の情報を随時報告し、それを踏まえた運営推進会議の意見を参考にさせていただきます。
F. 事業所の防災・災害対策	教育・防災委員会と連携して年2回の避難訓練、防災マニュアルの見直しを行っていく。	委員会と協力し年2回の避難訓練を行ったり、防災マニュアルの見直しを行いました。		利用者に合わせた避難経路やマニュアルなどを、教育・防災委員会と連携しながら作成していく。